

2017年1月11日

各 位

大阪信用金庫
理事長 樋野 征治

定例調査：第170回 景気動向調査（10～12月期）

- ☆足踏みから上昇へ・・・・・・・・・・売上D I +6.3 ㊦、収益D I +6.3 ㊦
- ☆設備投資は引き続き高水準・・・・・・・・・・「実施・予定」18.5%
- ☆先行きへの不安感は変わらず・・・・・・・・・・「売上受注の停滞・減少」53.2%
- ☆夏季賞与に続き6割超え・・・・・・・・・・冬季賞与「支給する」60.9%

●足踏みから上昇へ 売上D I +6.3 ㊦、収益D I +6.3 ㊦

総合では、売上D I が△3.7(前回比+6.3ポイント)、収益D I が△4.6(前回比+6.3ポイント)となり、売上D I ・収益D I とともに上昇しました。業種別では、前回先行して上昇したサービス業に続き他の業種も上昇し、中でも小売業、飲食業、運輸業、不動産業の伸びが顕著です。年末商戦が好調なことや不動産取引が活発なことが影響していると思われます。ただ、1-3月期の見通しは、総合で売上D I が2.1ポイント、収益D I が2.7ポイント、それぞれ下落するとしており、先行きについては慎重な見方が広がっています。

●設備投資は引き続き高水準 「実施・予定」18.5%

設備投資は、総合では「実施中」が8.5%(前回比△0.4ポイント)、「予定あり」が10.0%(前回比+0.5ポイント)となり、「実施中」と「予定あり」の合計は18.5%と、依然として設備投資動向は高水準で推移しています。中でも、サービス業は「実施・予定」が26.1%と前回調査より5.3ポイント上昇しており、好調な業況を背景として設備投資に積極的な姿勢が見られます。

●先行きへの不安感は変わらず 「売上受注の停滞・減少」53.2%

経営上の問題点は、総合では「売上受注の停滞・減少」が53.2%(前回比△1.4ポイント)と依然として一番の問題点となっています。一方で、「仕入単価の上昇」が5.9ポイント上昇し、中でも建設業が前回比9.2ポイント、不動産業が19.9ポイント上昇しました。鉄骨や石油関連の資材価格の上昇や物件獲得競争の激化により、仕入価格が上昇しているものと思われます。

●夏季賞与に続き6割超え 冬季賞与「支給する」60.9%

冬季賞与の支給について60.9%(前年比+1.3ポイント)が支給すると回答し、昨年の夏季賞与の調査に続き6割を超えました。賃上げではなく、一時金の支給で従業員に還元する傾向が見られます。業種別では、卸売業や飲食業、建設業、サービス業で上昇しています。支給金額別では、「20～30万円未満」が34.6%と最も多くなっています。

調査時点：2016年12月上旬
対象期間：2016年10～12月（実績） 2017年1～3月期（見通し）
対象企業：当金庫お取引先1,759社（大阪府内、尼崎市）
回答企業数：1,404社（回答率79.8%）
調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：福井）

TEL: (06) 6211-2921 FAX: (06) 6211-2930

E-mail: souken@osaka-shinkin.co.jp URL: http://www.osaka-shinkin.co.jp